

木枯らし1号のお話

前回のつぶやきで最後に書いたアトラス彗星 (C/2024S1) ですが、残念ながら明るくなる前に太陽に近づきすぎて崩壊してしまったそうです。あん Do も早起して東の空を狙ってみようと思っていたのですが、また次の彗星が来るのを待つしかないようですね。

さて、先週末はかなり気温が下がり、寒かったことを覚えている人も多いと思いますが、11/7の木曜日には東京で「木枯らし1号」が観測されました。

木枯らし、という言葉は「たき火 (かきねのかきねのまがりかど……)」の歌で聞いたことがあるという人もいるでしょう。秋の終わりから冬のはじめ (暦の上で冬がはじまる立冬のころ。今年 は 11/7 がまさに立冬でした。) に吹く冷たい北風で、これによって「木が葉を散らす」ことから木枯らしという名前がついているようです。



気象庁は「木枯らし1号」を東京と大阪（近畿）について発表しています

が、東京についての発表の条件は

1. 10月半ばから11月末までの期間に
2. 冬型（西高東低）の気圧配置になり、季節風が吹くこと
3. 風向きは西北西から北
4. 最大風速がおよそ風力5（風速8m / 秒）以上

の4つにあてはまること、だそうです。

あんDoが面白いと思ったのは、特に1についてです。

同じように季節の変わり目に吹く風として「春一番」があ

りますが、こちらは「立春から春分までの間」と日付

がきちんと決まっているんです。それに比べると木枯らし

1号は期間がざっくりしてるなーと思いませんか？



気圧配置や季節風については、中学入試でも良く出題されるので、気にな

る人は自分でも調べてみると良いでしょう。ティープロの理科では、4年生から

じっくり学習していきますので、楽しみにしていて下さいね。